長辻 幸 准教授
博士(文学)
Miyuki Nagatsuji
miyuki.nagatsuji@komatsu-u.ac.jp

研究 Keyword 日英対照、語用論、節等位接続

プロフィール
2013年　奈良女子大学 大学院人間文化研究科 博士後期課程 単位取得満期退学
2013年　奈良女子大学 研究院人文科学系 言語文化学領域 助教
2018年　博士(文学・奈良女子大学)
2018年　公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 助教
2021年　公立小松大学 国際文化交流学部 国際文化交流学科 准教授
研究分野
英語学・言語学
所属学協会
日本英語学会、日本言語学会、日本語用論学会、関西言語学会、
The International Pragmatics Association

日英対照から見えてくる ことばの世界

専門分野・研究分野

発話解釈において、言語形式は推論のための「手がかり」にすぎない

ことばは、私たちのコミュニケーションに重要な役割を果たしています。しかし、ことばによるコミュニケーションも、使用されている言語形式によってのみ成立するわけではありません。例えば、ある人と仲が良いのかどうか尋ねられた話し手が、“We still keep in touch, and we sometimes go out for a meal.” と返答したとき、質問には直接答えていませんが、彼らは数年来の友人だと解釈されます。つまり、話し手が実際に発話している文の意味と伝達しようとしている意味の間には隔たりがあり、聞き手はそれを推論によって埋めなければなりません。聞き手が話し手の意味をどのように理解するのか、コミュニケーションにおける言語形式と推論の相互作用について明らかにしようと取り組んでいます。

研究内容

日英対照により節等位接続の解釈を通言語的に説明する

上述の例のような英語の and 連言文は、and で連結された節間の様々な関係を伝達します。しかし、その関係は and そのものの意味ではなく、推論によって語用論的に引き出されます。一方、日本語には and 連言文に対応する節連結構造が複数あります。例えば、「知事は無法なカラスに頭にきて、カラスを撃退するためのプロジェクトチームを発足させた」のようなテ形構造、「父と娘は、一緒に散歩したり、土曜日には昼食を食べに行ったりした」のようなタリ構造、「コイやカブトエビは、水温が高いと働かないし、水がなくなったら死んでしまう」のようなシ構造などです。これらの構造によって得られる解釈は微妙ながらも異なり、その使用にはある種の制約があります。言い換えれば、日本語の節等位接続体系は、英語で区別されない側面に敏感に反応し、それを言語的に区別しているということです。日本語の分析から英語を見なおすことで、英語の観察だけからでは必ずしもわかりえなかった特徴を明らかにできる場合があります。日英対照研究により、節等位接続を通言語的に説明する解釈メカニズムを解明し、さらには、英語の and が固有に持つ言語的意味を規定しようと試みています。

図．アメリカ語用論学会第2回大会にて

シーズ・地域連携テーマ例
- 発話解釈における節接続構造の日英対照研究
- 語用論的要因を考慮した英語／日本語教育への応用

受賞
- 2022年度日本英語学会賞（著書），2022年11月

論文
- 日本語の接続助詞シにコード化される意味，長辻幸，*KLS* 32，206-217，関西言語学会，2012
- Japanese Clausal Coordination and Inferential Processing Units, Nagatsuji, Miyuki, *JELS* 31, 359-365, the English Linguistic Society of Japan, 2014
- Japanese Clausal Coordination and Exemplification, Nagatsuji, Miyuki, *Annual Reports of Graduate School of Humanities and Sciences* 32, 1-10, Graduate School of Humanities and Sciences, Nara Women's University, 2017
- A Dichotomous Comprehension Model of Clausal Conjunctions, Nagatsuji, Miyuki, *Intercultural Studies* 2, 45-58, Faculty of Intercultural Communication, Komatsu University, 2020

書籍等出版物
- 長辻幸「日本語の等位的節接続構造 ―発話解釈と推論処理単位―」益岡隆志・大島資生・橋本修・堀江薫・前田直子・丸山岳彦（編）『日本語複文構文の研究』，469-493，ひつじ書房，2014
- Nagatsuji, Miyuki *The Pragmatics of Clausal Conjunction*, Hituzi Syobo, 2021（令和2年度科学研究費助成事業（研究成果公開促進費）刊行物）
- 長辻幸「日英語の節連言文の語用論的分類」須賀あゆみ・山本尚子・長辻幸・盛田有貴（編）『人はどのようにことばを使用するのか―意味・語用論からその応用まで』267-285，ひつじ書房，2025

講演・口頭発表等
- Nagatsuji, Miyuki “Unified vs. Dichotomous Accounts of Clausal Coordination,” The 2nd Conference of the American Pragmatics Association, University of California, Los Angeles, 2014
- 長辻幸「日英語の節連言文の語用論的分類」関西言語学会第46回大会招待発表，Zoomによるオンライン開催，2021
- 長辻幸「連言文の推論特性と逸脱」日本語用論学会第27回大会ワークショップ「デフォルトからの逸脱―動的語用論から」（オーガナイザー 田中廣明），大阪大学，2024

競争的資金等の研究課題
- 「節連言文のデフォルト的推論特性と逸脱に関する動的語用論的研究」（代表）日本学術振興会科学研究費助成事業（若手研究），2025-2027年度

社会貢献活動
- 小松市明るい選挙推進協議会委員（2018年度）